

# 「医・職・住・教育・情報発信」キーワードに 山崎市政3期目スタート

任期満了に伴う綾部市長選挙で当選した山崎善也市長が2月1日、第18代綾部市長として初登庁しました。山崎市長は、市役所の玄関前で多くの市民や市職員を迎えられ「市民の皆さんに寄り添い、ふるさとあやべのために頑張る覚悟」と就任の決意を述べました。

## 市民に寄り添うまちづくりを

山崎市長は市役所玄関前に集まった市民や市職員の拍手に迎えられる登庁。仕上げと位置付ける3期目のスタートに当たり、抱負を次のように述べました。

「少子化・高齢化の進む人口減少社会への対応は、自治体運営の大きな課題。子育て支援や高齢者福祉、定住施策が重要です。一人ひとりの顔が見え、暮らしの息遣いが聞こえる小さなまちだからこそ、市民の生活に寄り添う、きめ細やかな施策ができる。事業所、市民の皆さんも一緒に、オール綾部で頑張っていきたいと思います。私もその先頭に立って、ふるさとのために頑張る覚悟です。」  
(要旨)

## 現場の声を施策に

山崎市長は登庁式に続き、市役所委員会室で職員に訓示。「市の強みは現場を知っていること。市民の思いや地域の



登庁式の後、職員に訓示



「住み続けられるまち」綾部の実現に向け登庁する山崎市長

特性を国・府に伝え、議論して、施策に反映させる役割があります。そのためにも、職員一人ひとりが国や府と信頼関係を築く意識を大切にしてください。綾部には今、2つの良い風が吹いています。1つは企業立地や物流など高速道路網の完成を背景とした産業面の風。もう1つは自然の中での子育てや農業・田舎暮らしを求める人の増加という田園回帰の風です。これらは綾部の持つ潜在力、可能性の表れともいえます。うまく風をとらえ、次の世代に希望が見えるよう引き継がなければなりません。

3期目も引き続き▽医（医療、福祉、保健、介護、子育て）▽職（農・林・商・工、観光）▽住（安全・安心、インフラ、公共施設、環境、交通、都市計画、定住促進）▽教育（幼稚園、学校、社会教育、青少年文化・芸術、スポーツ）▽情報発信（広報・広聴、平和施策、国際交流）の5つをまちづくりのキーワードとします。今までやってきたこと、やっていること、やろうとしていることを確実に、大胆に進めていきたいと思います。まちづくりの現場に立つ職員の知恵と工夫に期待しています」などと述べました。

## 開票結果

市長選挙は1月21日に告示。現職の山崎善也氏と前市議で新人の堀口達也氏が立候補しました。投票は28日、市内40か所の投票所で行われ、即日開票の結果、山崎氏が3期目の当選を果たしました。

当日の有権者数は2万8777人、投票者数は1万

3319人（うち期日前投票は3073人）でした。投票率は前回市長選より9.56ポイント少ない46.28パーセントとなりました。市選挙管理委員会発表の開票結果は次の通り（敬称略）。  
山崎 善也 9845票  
堀口 達也 3379票



市民に寄り添うまちづくりを表明



まゆび一から花束を贈呈